



ヤリの方角だといっています。

向こう岸にホヌシベツト、ウ
バラベナイ、イコベツケシメイ、
シユブシヤリ、シユブンシマリ
シトウシなどの小川を見なが
ら、十勝川沿いに進みました。
茅原かやはらが広がる中をそのまま
下って小川のライベツ、チエ
カリトンナイを渡りましたが、
すべての川の上流方面は一面
の原野です。美生川河口から



然別川

大きく曲がって流れていることから、「自分を回す川」
を意味するアイヌ語「シ・カリ・ベツ」が由来。

川筋をおよそ10キロ進むと、向こう岸に川幅36メートルほどの然別川しかりべつがあり、
その付近に人家が16軒ありました。その源はウペサンケ山にあり、
その後方は常呂とじろに当たるそうで、十勝第3の支流です。また、東岸
を少し下ると、泉いずみが湧く小池のフウレメム、小川のサリケシヨと過
ぎたところで、神鳥しんちようのフクロウの鳴き声を聞いたのでここで一首

日は暮るく、越方こしかたいそぐ道の邊へに

鳴ふくろうの 聲こゑにくげなり

（日が暮れてきたので、明るいうちに宿に着こうと

道を急いでいるとフクロウの鳴く声がした

夜目の効きくフクロウの鳴き声は

憎々にくにくしく聞こえてくることだ）